新庄村

アヒルのひな170羽〝進水〟

AMDAの水田 園児20人放す

新庄村の「アジア有機農業連携活動推進協議会」（稲田泰男会長）は6日、無農薬栽培を実践するため同村のAMDA野土路農場の水田（6枚）計60アールに、アヒルのひな170羽を放した。

農場は、同村と国際医療ボランティア「AMDA」（岡山市）、岡山商科大学（同）が連携し昨年春から運営。同協議会員が管理を行い、アヒルは8月末まで飼育する。

アヒルの〝進水式〟には、村保育所の2～5歳児20人、AMDAの菅波茂理事長や4月から村に居住し海外研修生の受け入れ準備を行っている職員の柴田宙樹さん(43)とマレーシア人のアロイシウス・シタミさん(39)らが参加。堆肥や粉炭で土壌改良し、先月28日に植えたコシヒカリ（47アール）とヒメノモチ（13アール）の水田に、アヒルのひなが園児の手から放たれた。薄ピンクのくちばしで虫や草をついばむ仕草に、園児たちは「かわいい」とはしゃいでいた。田の周囲を網で囲いテグスも張り巡らせ、夜はそばに設置した小屋に入れて外敵から守る。

シタミさんは、新庄村は朝晩の寒さを除いてはとても住みやすいと言い、「アヒルを使うやり方は初めて見た。土壌づくりなど自分の村とは大きく違うので、ここで有機農業をしっかり学びたい」。菅波理事長は「源流、無農薬で育てたことで昨年収穫したコメの味はとても良かった。販路の拡大や専門知識を持つ職員の養成に取り組み、来春はインドネシアかマレーシアから研修生を受け入れたい」と話していた。

水田にアヒルのひなを放す園児たち